

明日にむかって

発行 社会福祉法人陽光会 編集 「明日にむかって」編集委員会 発行日 2018年3月8日
住所 〒173-0032 東京都板橋区大谷口上町23-1 ☎03-3956-1068(陽光保育園)
社会福祉法人陽光会 HP <http://youkou-kai.com>

85号

先日、草津に一泊旅行に行ってきました。温泉も目的ではあったのですが、第一の目的は国立療養所栗生楽泉園の敷地内にある重監房資料館を訪ねることでした。「重監房」とは、正式名称を「特別病室」と呼ばれていましたが、実際には患者への治療は行われず、「患者を重罰に処すための監房」として使用されていたところ。国の誤った政策で、ハンセン病を患った人々は強制隔離され、世間から忌み嫌われるようになってしまっただけでなく、療養所で些細な要望や意見を述べただけでも「秩序を守る」という理由で所長の権限で収監され、亡くなった方が23人もいたというのです。無知と差別と偏見が、このように人権を完全に無視することにつながってしまうのだと改めて思いました。

(T・R)

陽光保育園 ● 地域共育講座

「子どものため」ってなあに？

講師 広木克行 先生

「大人も子どもも共に育ちましょう」との思いから名づけられた陽光保育園・地域共育講座は、30年近くにおよび毎年1回開催され、今では北町保育園でも独自に開催しています。今回は、2月9日、広木克行先生をおよびして陽光保育園で開催した講座のご報告です。

「子どものために大切なことは？」

広木先生のお話は、自分の生い立ちから始まりました。先生の原点となる、母親の愛情や、ありのままを受けとめられて育った環境がありました。

「子どもが、自分のやりたいことを見つけたとき、信じて待てますか？」
「困った子というのは、親が困っていることを押し付けるから困っている子になる」



広木克行 (ひろき かつゆき) さん
1945年、樺太生まれ。東京都立大学卒。東京大学大学院博士課程単位取得、教育行政学、臨床教育学専攻。長崎総合科学大学教授、神戸大学教授を経て、大阪千代田短期大学教授・学長を経て、現在神戸大学名誉教授。不登校・登校拒否を考える親の会相談員。著書に「21世紀を生きる君へ—こころの時代」「子どもが教えてくれたこと」「子育ては素敵なこと」(以上、北水)、「手をつなぐ子育て—思春期を見通して」(かもがわ出版) など多数

子どもにとって大切なことの一つ目は、肌に触れる大切さ、毎日ぎゅっと抱きしめてあげること。二つ目は、子どもの顔をちゃんと見て話を聞く大切さ、親の聞き手として、話を聞いてくださいますか？

「ありのままを受けとめる」

「大人の気持ちや子どもに考えさせることは、子どもにとってストレスになる」という先生の言葉にドキッとさせられました。不登校のカウンセリングの事例や、さまざまな新聞の記事、子どもに関わる本の紹介を交えながら、子どもは何を求めているのか？ 子どものために大切なことは何か？ をわかりやすく話してくださいました。



子どもの世界

～板十小あいキッズ～

1 年生 — 就職の条件？!

「このあいキッズは、メガネの先生が多いね。あとむでしょ、そうたでしょ、メガネでしょ、わきちゃんでしょ……。あっ! もしかして、メガネじゃないとあいキッズに就職できないのか!」とは1年生の女の子。

5 年生 — 傷の手当

学校の改築工事で、校庭の遊具や植栽などの解体が始まって、「あっちの桜の木、なくなってる! こっちの桜の木も、抜かれちゃうの?」と5年生のA子。
職員「来年になったら、抜かれちゃうのかもしれないね」
A子「え〜、抜いたら死んじゃうよね?」
職員「もしかしたら、移植されるかもしれないよ」
A子「それなら今のうちだ。ばんそうこう1枚ちょうだい」
職員「どうして?」
A子「今のうちに怪我してる所を治しておくの。そのほうが、別の場所に移したときに、調子いいでしょう」



そして、身体と心が育ち、人格が形成される「つ」のつく

時代(ひとつ、ふたつ、みつ……このつ)の幼少期にそのことをたくさんしてあげてほしいと。
広木先生は、子どもの気持ち、親の気持ち、保育士の気持ち、教師の気持ちなどすべての人を受けとめ、誰も否定せず、話を聞き、話をしてくださいますか？

質疑応答のときのお話もとても具体的で、もっと続きが聞きたいと思いました。
ゲームのこと、虐待のこと、子どものストレスのこと、カウンセリングの実例のお話などなど。そして、何歳になっても、ありのままの子どもの受けとめられる自分ではないかと思いました。

参加者 アンケートより

☆しっかりと目を見て話を聞く! これをしっかりとやります!! 今までごめんね、と思いましたが、☆まずはスキンシップ。短い時間でも心をこめてふれあうこと、それを大事にしていきたいと思えます。親になる勉強をしている人はいないと言われたことに救われた気がします。
☆波にのまれて、いろいろなことをしすぎたり……。早期教育など、させたほうがよいかと悩んでいたため、お話を聞いてよかったです。話し方がとても優しく癒されました。
☆温かい気持ちになりました。(質問した)保護者にかけていた言葉に、親も認めてもらった安心感を感じました。方法はともかく、子と思う気持ちをくんでくださるころ、(中略)親も励ましてもらえたと思います。

☆子どもを上手く愛してあげられない自分を変えたいと、ずっと思っていたけど、どうしたらいいかわからなかったんだな、と思いました。今からでも、毎日抱きしめようと思えるほど、心にひびくお話でした。
☆子どもを上手く愛してあげられない自分を変えたいと、ずっと思っていたけど、どうしたらいいかわからなかったんだな、と思いました。今からでも、毎日抱きしめようと思えるほど、心にひびくお話でした。
☆現代の子どもの満ち足りた顔。正直、素直にわかっていって思えないときがあった、悩んでいました。でも、それって、自分の関わりから起こる負の連鎖だったんだなあと罪悪感でいっぱいなのが、スッと軽くなりました。ありがとうございます。
☆現代の子どもの満ち足りた顔。正直、素直にわかっていって思えないときがあった、悩んでいました。でも、それって、自分の関わりから起こる負の連鎖だったんだなあと罪悪感でいっぱいなのが、スッと軽くなりました。ありがとうございます。

● 陽光保育園	卒園式	日時	3月21日(祝)	9時30分
会場	陽光保育園ホール	日時	7月1日(日)	10時~14時
● 北町保育園	卒園式	日時	3月17日(土)	9時30分
会場	陽光保育園ホール	日時	6月9日(土)	13時~16時
● 共育講座	「口をめぐらしてと向きあおう」2	講師	岩倉政城先生	
日時	6月9日(土)	13時~16時		
● 卒園式	会場	板橋区立平和公園(予定)		
日時	3月17日(土)	9時30分		
● 卒園式	会場	板橋区立平和公園(予定)		
日時	4月22日(日)	11時~14時		
● 陽光会後援会	日時	5月25日(金)	18時30分~軽食	19時~総会
会場	陽光保育園ホール			

社会福祉法人陽光会 ● 近況

● 北町保育園 ●
北町保育園では、1~2月にかけてのクラスも午前中に保育参観、午後には保護者会を行う日を設けています。2歳児の保育参観の日には、親子で手をつないで公園へ行き、一緒に遊んでみました。子どもたちは前日から楽しみにしていて、朝、登園するなり「今日は楽しみ!」とウキウキしていました。忙しいなか、子どもとゆっくり過ごすことができて、我が子の成長を感じられる大切な時間だと感じています。



右: お父さん、お母さんと手をつないで公園へ。左: 親子で一緒にすべり台

● 桜台第一保育園 ●

子どもたちの成長を保護者とともに喜び合う春の会が2月にありました。3歳児、4歳児クラスは劇、5歳児クラスは劇と太鼓、たてわりグループではグループごとに歌に取り組みました。



劇の練習、楽しいね。5歳児の出し物は「おたまじゃくしの101ちゃん」

● 陽光保育園 ●

1月18日、高麗にある佐島牧場へ年長児が乗馬遠足に行きました。着くとさっそく白い馬が小屋から顔を出してお出迎え。少しビクビクしていた子どもたちでしたが、「アルパ」という名前を覚えてもらって、「アルパがどう」と自然と声が出るようになっていました。乗った後、アルパのお腹に触らせてもらうと、「あったかい」と優しく話していました。



ニンジンをおもてあがる

● 板十小あいキッズ ●



コマ回しに熱中しています!

学童クラブ時代に行っていた「コマ検定」が久しぶりに復活! 検定前からコマ熱は高まり、なかには来室してから帰宅時間までずっとコマを練習する子も見られ、指導員も感心するほどでした。検定の級にはテクニカルな難しい技もありましたが、あきらめずに毎日検定に参加していた子どもたちの頑張り拍手!! 検定終了後も、まだまだ子どもたちのおコマ練習は続きます。コマに自信のある方、技の指導・応援にぜひあいキッズへ来てくださいます。

描画

体験から生まれる絵

陽光会の保育
を紹介する
新シリーズ
です。

陽光会は、子どもが主体性を持ち子ども本来の力を発揮できる魅力的な保育を研究してきました。本紙前号の「歌」に引き続き、特に大切にしている活動の第2弾として「子どもの絵」について、今回は受託して2年目の桜台第二保育園（2歳児）の実践を2年目の実践を「報告」します。子どもの絵は年齢が進むにつれ、心に響いた日々の体験を人に伝えたいという思いが溢れてきます。お話の世界をイメージして描くこともできるようにあります。そのような実践の「報告」です。



「ママとパパ、おでかけしてるの」
2歳児の絵

絵で自分の思いを伝える

桜台第二保育園は、練馬区から委託を受けて2年目となりました。陽光会が大事にしている保育の柱であるリズム、歌、描画、散歩、どろんこ遊びなど、子どもを主人公にした保育内容を大切に日々の保育を行っています。その一つである『描画（絵）』について、桜台第二保育園の取り組みを紹介いたします。

まだ言葉で十分に自分の思いを伝えられず、また書き言葉（文字）を獲得していない乳幼児（0～5歳児）にとって「絵」は、自分の思いを伝える大切な表現手段となります。なので、私たちは、描いた絵の形を見て評価するのではなく、絵に込められている思いに心を寄せ、お話を聴くことを大切にしています。



「いっしょにやったね」という共感ノが大事

*『新婦人しんぶん』2000年10月15日号掲載

ワン・ツー・スリー のびのび体操 1・2・3

（月一回）



赤ちゃんからリズムへ
東京・陽光保育園 小内康寛

第7回 赤ちゃん体操をふり返って

今回は、生後6、7カ月の赤ちゃんを例に、赤ちゃん体操をふり返り整理してみましょう。6、7カ月の赤ちゃんの身体的特徴は、寝返りができ、お座りができ始めることです。発達段階に合ったものをすることが、赤ちゃん体操の前提でした。大切なこと①時間を選びます。朝9時～11時、もしくは昼寝後3時～4時くらいまでに。それは、人の生理がその時間帯が一番活発だからです②赤ちゃんの具合や機嫌をみます。機嫌がよくないときにやっても効果はありません③準備の段階として、脚からマッサージを。指で肌を軽くつかんでの「もみもみ」や、指でこする「ごしごし」など少し深いマッサージです（第2、3回で紹介）④足指のけり、脚も強くなっています。指（曲げるところ）、脚の曲げ、けりをさせます⑤背骨も発達する時期なので、腕の動作（図1）と反り（図2）もします⑥背骨（脊髄神経）の刺激（図3）⑦赤ちゃんの体を左右に傾け、立ち直ろうとするか「立ち直り反射」（第5回）や、⑧引き上げ動作をしてみる—などです。（正味15分）。最後に「いっしょにやったね」と、抱っこやなどでをします。この共感するということが大事なのです。楽しかった記憶は明日につながります。



絵を描く子どもの言葉に耳を傾ける

子どもの思いを 保護者と共有

保育園の廊下や保育室に、子どもたちの絵を貼り出し、保護者の方々と楽しんで見たり、成長を喜び合ったりしてききました。また、各年齢の描画を通しての発達や、描画で大切

親子でいっしょにあそびましょう

●陽光保育園●

2018年度も、保育園の子どもたちが日ごろ遊んでいる「砂遊び」と「リズム遊び」を主に計画しました。これまでに参加されたみなさまからも「家庭ではできないことができてよかった」「とても楽しかった」など、たくさんの感想をいただいています。公園ではできない遊びが体験できますよ。親子で気軽に遊びにきてください。無料です。

場所 陽光保育園(板橋区大谷口上町23-1) ☎3956-1068

時間 午前9時30分～11時(赤ちゃんは10時30分まで)

対象 0歳児～就学前のお子さんと保護者

- *参加ご希望の方は実施予定日の3日前までににお電話ください。
- *動きやすい服装で、タオルと着替えをご持参ください。
- *お天気により内容を変更する場合があります。
- *0歳のお子さんは、室内にて、赤ちゃん体操・あやし遊びなどでゆったり過ごします。

2018年度◆年間予定

4月17日(火)	5月15日(火)	6月19日(火)
7月17日(火)	8月21日(火)	9月18日(火)
10月23日(火)	11月20日(火)	12月18日(火)
1月15日(火)	2月19日(火)	3月5日(火)

*9月は看護師が「健康」の相談をうけ、11月は栄養士が「食」の相談をうける予定です。



ありがとう

2011年9月、東日本大震災の年、台風のなか元気に生まれてきてくれてありがとう。ママも一生懸命に頑張りました。ありがとう。また言葉もしゃべれないなか、北町保育園に入園。正直とても心配で親バカ心満載でしたが、友だちや保育士の先生、お兄ちゃん、お姉ちゃんと仲良くしている姿を見ると、日に安心感と喜びを感じたことを覚えています。

「パパ！ママ！」と初めて言うようになったときは、とてもうれしく感動しました。2歳、3歳と、体も動くようになり、先生やクラスだよりから、友だちと協力したり、喧嘩したり、やさしい一面があることを知ると、会える時間が少ない私は、驚きと喜び、そしてこんなに早く大きくなっていったらいいなと思いました。

自分では教えられることがいっぱいあるなと感じるなか、先生やお友だちと一緒に過ごさせてもらって、本当に感謝しております。

4歳、5歳と自分の意見をしっかりと伝えるようになってからは、「○○くん何々した！」とか、保育園の様子を聞くのが楽しみになりました。子どもたちの仲が良いから、自然とパパ・ママたちも仲良くなり、親子遠足に行ったりときなどとても楽しかったのを覚えています。地元ではない自分たちにとってとても心強いです。保育園で一緒に過ごす時間もあとわずかですが、よろしくお願ひします。先生方、子どもたち、父母のみなさん、長いようで短い時間でしたが、本当にありがとうございました。

最後の楽しみが、子どもの成長記録です。こんなに大きくなったんだと家族で話るのが楽しみです。北町保育園に入った子どものおかげで、とてもいい経験と出会いがありました。子どもだけでなく、私たちも保育園に入園したような気持ちで、さまざまな人に支えられ、素敵な5年間を過ごせました。本当にありがとうございました。

「小学生になる海翔！これからもよろしく!!!」

(北町保育園5歳児・海翔の父 渡邊学史)

母の涙、叔母の涙

杉 英夫



「戦争を知らない子どもたち」というフォークソングが戦後流行した。「戦争を知らずに僕は育った」というフレーズに、今の内閣では安倍総理をはじめほとんどの閣僚が戦争を知らずに改憲に集中したり、沖縄をいじめたりしているように思えてなりません。戦争がいかに残酷で人を傷つけることなのか、73年前の記憶をたどってみたいと思います。

太平洋戦争は私が中学に入ったときに始まり卒業の前に終わった。学校の広い運動場は食糧不足のため、畑に変わり、とうきびや芋畑となった。父の転勤で東京から福岡に転居した我が家は配給の米以外は入手できず、母は自分の着物や帯を農家に持っていき、米に換えて糊口をしのいだ。食べ盛りの私は毎日「腹減った。何かない？」と母を困らせていた。今、母の気持ちを思うと慚愧に堪えない。

戦後も空腹はついて廻り、上野から汽車に乗って、常磐線沿線の農家を訪れて母から預かった着物を米に換えて家に帰った。ある日、汽車の中でヤミ米の手入れがあり、せっかくの米を警官に没収されてしまった。手ぶらで帰った私を迎えて、母は泣いた。私も泣いた。母の筆筒にはもう着物は残っていなかった。

私には神戸に年上の従兄がいて、中学では常に首席を通し、海軍兵学校に入った。ある夏に帰郷したときに逢った。純白の兵学校の服に短剣を下げ、日焼けした顔で「よう、坊主」と笑った。短剣に触れさせ、帽子をかぶせてくれた。別れのとき、拳手の敬礼をして、駅のほうに歩いて行き、一度も振り向かなかった。後日、沖縄の特攻に部下と編隊を組んで出撃し、帰らぬ人となった。神戸の家での別れのとき、私の背後で涙をこらえていた叔母の嗚咽の音が聞こえた。

戦後、毎年のように靖国神社に従兄の写真を探してきた叔母も今は亡く、私は毎年夏になると叔母の意思を継いで靖国に写真を探しに行っている。

戦争とはそういうものだ。平和の世に暮らす人々は知るべきであり、戦争とはどんなに残酷で母親を悲しませるものだと総理も胸に刻み、軽々たる思考や行動に走ることは絶対に止めるべきである。

(中野区在住/86歳)